

出穂は平年より2～3日程度遅れる予想。葉色が淡いので穂肥は遅れずに！

生育概況(普及課生育診断ほ6月29日現在)

平坦部 (川西町)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	平坦部 (飯豊町)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
はえぬき	本年	40.0	586	8.5	42.5	はえぬき	本年	38.8	578	8.4	43.2
	前年	44.3	577	9.0	45.3		前年	47.6	667	9.4	46.9
	平年	44.7	628	9.0	42.8		平年	45.0	670	9.3	44.0
	平年比・差	89%	93%	-0.5	-0.3		平年比・差	86%	86%	-0.9	-0.8

平坦部 (川西町)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	平坦部 (飯豊町)		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)
つや姫	本年	32.5	514	8.0	40.8	つや姫	本年	35.8	446	7.8	39.5
	前年	42.6	401	8.7	45.3		前年	47.8	490	9.0	45.7
	平年	44.0	518	8.8	43.4		平年	48.0	508	8.8	40.0
	平年比・差	74%	99%	-0.8	-2.6		平年比・差	75%	88%	-1.0	-0.5

【概況】

6月9日の梅雨入り以降、気温が低い天候で経過したため、生育診断ほにおける、6月29日現在の生育は「草丈:短い」「茎数:やや少ない」「葉数:0.5～0.8枚少ない」「葉色:やや淡い」状況で経過しています。6月中旬からは土壌還元(ワキ)による下葉の黄化が見られ始めています。

幼穂の発育状況と出穂の予想

品種名	田植日	幼穂長(mm)	出穂予想	平年差	
農業総合研究センター (山形市) 7月2日現在	はなの舞 里のゆき	5月22日	1.0	7/30	5日遅い
		0.6	8/1	5日遅い	
		0.4	8/2	5日遅い	
水田農業試験場 (鶴岡市) 6月28日現在	はなの舞 あきたこまち どまんなか ひとめぼれ はえぬき	5月20日	0.3	7/30	3日遅い
		0.2	8/2	3日遅い	
		0.2	8/3	2日遅い	
		0.1以下	8/8	2日遅い	
		0.1以下	8/8	3日遅い	

出穂時期は「平年より2～3日程度遅れる」と予想されます。

当面の対策

(1) 水管理 ～生育量に応じて確実に中干しを実施しましょう！～

無効分げつの抑制と根の活力向上を図るため、中干しを行っていないところは、直ちに実施しましょう。また、生育量が大きい場合や、葉色が標準より濃い場合などは強めに行い、生育量が小さく、葉色がさめかかっている場合は弱めの中干しとします。また、効率的な水管理を行うため、作溝とセットで中干しを行います。

(2) 斑点米カメムシ類対策

6月下旬以降から斑点米カメムシ類の発生は急激に多くなってきます。特に、イネ科雑草が繁茂している畦畔、農道周辺では発生が多くなりやすいので、畦畔及び農道等の草刈りを地域ぐるみで徹底し、カメムシ類の生息密度低下に努めましょう。

(3) 葉いもち対策 ～今後の葉いもち発生に注意しましょう！～

6月19日に本田で葉いもちの発生が確認されています。また、発生予察情報では、「平年並み」の発生と予想されています。圃場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底しましょう。

(4) 品種別穂肥の目安

幼穂の発育状況から予想される出穂時期は、平年より2～3日遅れると予想されます。しかし、現在の葉色が低下してきていること、土壤中の残存アンモニア態窒素が少ないこと（農業総合研究センター）から、穂肥時期は遅れず平年並みの作業を心掛けましょう。

通常の化成肥料を使用する場合

品種名	出穂期(平年)	穂肥のタイミング	穂肥時期の目安	施肥量(N成分量)/10a
ヒメノモチ	8月1日	出穂25日前	7月7日	2.0
はえぬき	8月7日	出穂25日前	7月13日	2.0
コシヒカリ	8月13日	出穂18～15日前	7月26～29日	1.0～1.5

有機質肥料を使用する場合は、通常の化成肥料に比べ5日程度早めに施用しましょう。

品種名	出穂期(平年)	穂肥のタイミング	穂肥時期の目安	施肥量(N成分量)/10a
つや姫	8月13日	出穂30～25日前	7月14～19日	1.5

「つや姫」の穂肥診断（7月10日頃）

【適正域】

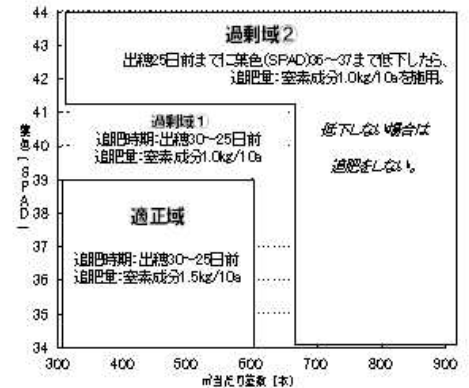
追肥は、出穂30～25日前、窒素成分1.5kg/10aを基本
追肥時の適正な葉色は、葉緑素計（SPAD）で39以下、葉色板で5以下

【過剰域】

茎数が600～650本/m²、または、葉色39～41の場合は窒素成分を減らして出穂30日前に1.0kg/10aを施用

【過剰域】

茎数が650本/m²以上、または、葉色が41以上の場合、出穂前25日ころまで葉色が低下したら窒素成分を減らして1.0kg/10aの施用とする。葉色が低下しない場合は追肥を控える。

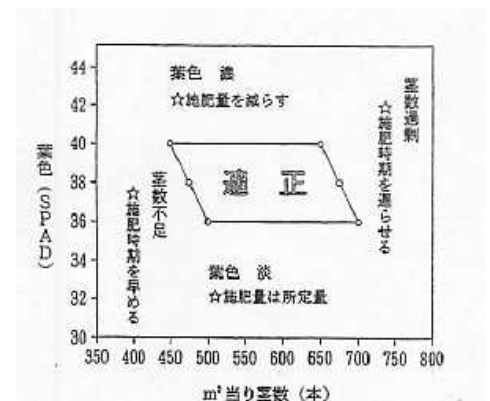


「はえぬき」の穂肥診断（7月10日頃）

茎数と葉色が適正内であれば、追肥は、出穂25日前、窒素成分2.0kg/10aを基本

7月10日の茎数が650本/m²以上、または、葉色が40以上の場合、窒素成分を減らして1.0kg/10aの施用とする。葉色が低下しない場合は追肥を控える。

茎数が450本/m²以下の場合、追肥時期を早めて対応する。



「コシヒカリ」の穂肥診断（7月20日頃）

追肥は、出穂18～15日前、窒素成分1.0～1.5kg/10aを基本

倒伏程度が2以下（倒伏程度0～4評価）となる生育量の目安

葉色(SPAD)	草丈(cm) × 茎数(本/m ²)
41以下	70 × 470
	75 × 440
	80 × 410

} 以下

倒伏が懸念される場合は、減肥（ムラ直し）するか、追肥しない。

